

社会福祉学専攻の教育目的、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

教育目的

博士前期課程

博士前期課程では、社会福祉に関連する理論、政策、実践、援助技術に関する専門的な知識と課題把握力、分析力、対応検討力、システム構築力を備え、あわせて、高い倫理観を持ち、社会福祉の具体的な方向を示すことができる力量を持った人材を育成する。

博士後期課程

博士後期課程では、社会福祉に関連する理論、政策、実践、援助技術に関するより高度な知識と課題把握力、分析力、対応検討力、システム構築力を十分に備え、あわせて、高い倫理観を持ち、社会福祉の具体的な方向を独自に示すことができる力量を持った人材を育成する。

教育目標

博士前期課程

社会福祉学専攻は、上記の理念および教育目的を達成するため、社会福祉の援助方法と政策運営に関する授業、研究指導を行い、多様性のある社会福祉の教育を進める。具体的な教育目標を次のように設定する。

1. 社会福祉に関する諸事象を的確に理解し、分析し、課題を整理することができる、問題発見・提示に関する能力を身に付ける。
2. 把握した社会福祉に関する課題に対して、社会的諸条件を考慮しつつ、具体的、現実的、科学的な解決策を検討し、明示し、発信できる能力を身に付ける。
3. 学生の研究課題に応じた研究指導體制のもと、学生自らが研究課題を明確にできるようになる。
4. 自らの研究課題に関する先行研究の精査を不足なく行い、当該課題の学術的到達点を考察できるようになる。
5. これまでの学術的到達点をふまえて、論文で何を明らかにするのかという基本的な問いを適確に示せるようになる。
6. 専門的な研究のためのさまざまな方法論を知り、倫理面も含めて自らの課題の追究にふさわしい方法を選択し、その方法で研究を遂行する技術を習得する。
7. 研究によって得られた結果を明確に示し、それをもとに考察や検討を行えるようになる。
8. 論文によって示された知見が、社会福祉学において有意義なものであることを説得的に示せるようになる。

博士後期課程

社会福祉学専攻は、上記の理念および教育目的を達成するため、社会福祉の援助方法と政策運営に関するより高度な授業、研究指導を行い、博士前期課程で培った多様性のある社会福祉の見識をより徹底的に深化させる。具体的な教育目標を次のように設定する。

1. 社会福祉に関する研究課題において、自ら新しい問題を把握、設定して、それを解決する有用な方法を開発しうる創造的な知性を養成する。

2. 学生の研究領域に応じた指導教員を配置することで、各自が必要な知識・技術を習得し、高度かつ専門的な研究を行うためにテーマを絞ることを可能にする。
3. 専門的な研究のための方法論に関して十分に理解し、倫理面も含めて自らの課題の追究にふさわしい方法を選択し、その方法で研究を遂行する高度な技術を習得できるようにする。
4. 自らの研究課題に関連する領域の先行研究を十分に精査し、当該課題の学術的到達点に関して批判的に検討できるようにする。
5. 適確な文献、データ、資料を用いた論文の展開が、全体として十分な整合性があり、そこから引き出される結論が説得的なものとなるようにする。
6. 十分に検討された明確な問題意識にもとづき科学的、合理的な研究を進めることで、独創性のある新しい知見を示すことができるようにする。
7. 論文によって示された内容が、社会福祉学の発展に貢献できる学術的価値があるものとなるようにする。

ディプロマ・ポリシー（学修評価・学位の授与方針）

博士前期課程

社会福祉学専攻博士前期課程は、人間や社会に関する多様な学問領域の高度に専門的な知識を横断的、複合的に身に付けて、知的分析力、構成力、情報発信能力を養い、社会福祉領域における諸問題の解決に向けて、具体的な展望を提示することができる人材の育成を目的とする。そのために、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき技術・能力とする。

1. 社会福祉に関する諸事象を的確に理解し、分析し、課題を整理できる能力。
2. 把握した社会福祉に関する課題に対して、社会的諸条件を考慮しつつ、具体的、現実的、科学的な解決策を検討し、明示し、発信できる能力。
3. 自らの研究課題に関する先行研究の精査を不足なく行い、当該課題の学術的到達点を考察できる能力。
4. これまでの学術的到達点をふまえて、論文で何を明らかにするのかという基本的な問いを適確に示すことができる能力。
5. 専門的な研究のためのさまざまな方法論を知り、歴史的研究、実証的研究等自らの課題の追究にふさわしい方法を選択し、その方法で研究を遂行する技術。
6. 研究によって得られた結果を明確に示し、それをもとに批判的に考察や検討を行える能力。
7. 論文によって示された知見が、社会福祉学において有意義なものであることを説得的に示すことができる能力。
8. 自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

博士後期課程

社会福祉学専攻博士後期課程は、人間や社会に関する多様な学問領域のより高度な学術的探究を進め、専門的、科学的な展望を提示するに必要な、知的分析力、批判能力、論理的構成力、言語運用能力、情報発信能力を養い、社会福祉領域における諸問題の解決に向けて、取り組むことができる人材の育成を目的としている。そのために、以下の項目を学位授与のために身に付けるべき能力とする。

1. 社会福祉に関する研究課題において、自ら新しい問題を把握、設定して、それを解決する有用な方法を開発しうる能力。
2. 専門的な研究のための方法論に関して十分に理解し、自らの課題の追究にふさわしい方法を選択することのできる能力、またその方法で研究を遂行する高度な技術を行使することのできる能力。
3. 自らの研究課題に関連する領域の先行研究を十分に精査し、当該課題の学術的到達点に関して批判的に検討できる能力。

4. 適確な文献、データ、資料を用いたうえで、全体として十分な整合性をもって展開され、そこから引き出される結論が説得的なものであるような論文を構成する能力。
5. 十分に検討された明確な問題意識にもとづき科学的、合理的な研究を進めることで、社会福祉学の発展に貢献できる、独創性のある新しい知見を示す論文を執筆できる能力。
6. 自らの研究の遂行および成果の発表と、それを通じた社会貢献について、使命感、責任感、高い倫理観に基づいて判断することのできる能力。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

博士前期課程

社会福祉学専攻博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む31単位の科目を修得すること、研究指導を受けて修士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。

- 共通教育科目では、「研究公正A」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。
- 特別演習・特別研究科目では、必修科目として、1年次に「社会福祉特別演習IA・IB」、2年次に「社会福祉特別演習IIA・IIB」を置く。

これらの科目では、指導教員の個別の研究指導を通して、自らの研究課題に関する先行研究の精査を不足なく行い、当該課題の学術的到達点を考察できる能力、これまでの学術的到達点をふまえて、論文で何を明らかにするのかという基本的な問いを適確に示すことができる能力、研究によって得られた結果を明確に示し、それをもとに批判的に考察や検討を行える能力、論文によって示された知見が、社会福祉学において有意義なものであることを説得的に示すことができる能力を修得させる。その上で社会福祉学にとって意義がある論文を仕上げさせる。

必修科目として1年次に「社会福祉特別実習I」、選択科目として2年次に「社会福祉特別実習II」を置く。これらの科目では社会福祉に関する諸事象および解決策を具体的に検討させ、把握した社会福祉に関する課題に対して、社会的諸条件を考慮しつつ、具体的、現実的、科学的な解決策を検討し、明示し、発信できる能力養成する。

- 専門科目においては、社会福祉の諸課題を扱う科目、社会福祉理論、社会福祉援助、ソーシャルワーク、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、公的扶助に関する科目、地域福祉、社会保障、社会福祉に関する法制度を扱う科目などを、主に1年次において提供する。

これらの科目を通して、社会福祉に関する諸事象を分析し、考察することのできる能力、専門的な研究のためのさまざまな方法論を知り、歴史的研究、実証的研究等自らの課題の追究にふさわしい方法を選択し、その方法で研究を遂行する技術を身につけさせる。

博士後期課程

社会福祉学専攻博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーにおいて示した能力を持つ人材を育成するために、必修を含む17単位の科目を修得すること、研究指導を受けて博士論文を作成し、論文の審査および最終試験に合格することを、課程修了の必要要件として課している。本課程では、次のような科目編成により、学位取得に必要とされる専門知識・能力を修得させる。

- 共通教育科目では、「研究公正B」を1年次の必修科目とし、講義およびグループワークを通じて、研究の遂行・発表において必要とされる高度な倫理観を修得させる。

- 特別演習・特別研究科目では、1年次に「社会福祉特殊研究演習IA・IB」、2年次に「社会福祉特殊研究演習IIA・IIB」、3年次に「社会福祉特殊研究演習IIIA・IIIB」を置き、必修科目とする。

これらの科目では、指導教員の個別指導を通して、社会福祉に関する研究課題において、自ら新しい問題を把握、設定して、それを解決する有用な方法を開発しうる能力、専門的な研究のための方法論に関して十分に理解し、自らの課題の追究にふさわしい方法を選択することのできる能力、またその方法で研究を遂行する高度な技術を行使することのできる能力、自らの研究課題に関連する領域の先行研究を十分に精査し、当該課題の学術的到達点に関して批判的に検討できる能力、適確な文献、データ、資料を用いたうえで、全体として十分な整合性をもって展開され、そこから引き出される結論が説得的なものであるような論文を構成する能力、十分に検討された明確な問題意識にもとづき科学的、合理的な研究を進めることで、社会福祉学の発展に貢献できる、独創性のある新しい知見を示す論文を執筆できる能力を養成する。

- 専攻選択科目では、社会福祉に関する多様な研究課題を学び、自ら新しい問題を把握、設定して、自らの研究テーマがその中においてどのような位置にあるのかを知ると同時に、これらの問題を解決する方法を考察する。